

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293400014		
法人名	有限会社 憩		
事業所名	グループホーム 憩 新棟		
所在地	千葉県袖ヶ浦市横田1709-3		
自己評価作成日	2013年11月10日	評価結果市町村受理日	平成26年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	2013年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お天気の良い日には施設周囲を30分程掛けて歩いてくるコースがあります。殆ど車が通らないところで、安全が確保でき、安心して歩くことが出来ます。そこではご近所の方と気軽に会話できる関係もできております。又周囲は田畑に囲まれておりますので、のんびりとお花や季節の移り変わりを眺める事が出来る気分転換の場所になっております。平成24年に開所した共用型認知症対応型通所介護(予防含む)も行っており、外部の方々との交流も見られてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「ゆっくり楽しく一緒に」を目指し、管理者、職員は方向性を合わせ、利用者に関わりながら一人ひとりのニーズの把握に努めている。利用者の課題には自立の視点から取り組んでいる。昼夜逆転課題多い利用者に対し、医師とも相談しながら薬を中止し、粘り強く支援した結果、安定に向かった事例もある。個別の外出の希望にも対応しており、コンサート、落語の鑑賞などにも出かけている。ホームの周りは自然が豊かで、散歩の途中で民家の庭に立ち寄り草花を鑑賞するなど、近隣住民と交流をしている。また、散歩コースに地域の人たちが休憩用の椅子を設置してくれるなど理解を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一人としての気持ちを持って生活している。散歩などでも気軽に声掛けをして親しんでいる。ご近所も、季節のお花を見せてくれたり、何かにと心遣いをして下さる関係性がある。利用者が日々、笑顔で過ごせる係わりを重視している。	「ゆっくり楽しく一緒に」という理念を、パンフレットや玄関に掲示している。毎週のカンファレンスでは理念に沿ったケアができていないかを話し合い、新任職員にはオリエンテーションで伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	袖ヶ浦市で開催の公民館行事やグランドゴルフ大会・敬老会などに参加したり、袖ヶ浦公園・JA祭りなどに出掛けて地域の方々と交流する機会をもっている。	散歩で近隣住民と挨拶を交わす、利用者が地域のグランドゴルフに参加する、近所の方が七夕の飾りつけにホームに来てくれるなど、交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方々はお会いしたり、会話の中で認知症の理解が進んでおります。又出掛けたりお買い物などで、他の方々とお話したりもされることで、毎年少しずつ理解が進んでくださるようになっております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催しており、利用者の状態を毎回お伝えしております。そこでの理解から、要望や疑問質問なども出てきており、施設のケアの質の向上につながっております。	市の担当者、地区長、民生委員、家族代表、施設長及び管理者で構成される運営推進会議が2か月毎に開催され、ホームの状況説明後、意見交換が行われている。今後は一般職員の参加も検討している。	今後は一般職員の参加を考えているので、報告、質疑応答等にとどまらず、さまざまなテーマでの意見交換が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、市の相談員が来所しております。利用者の状態を見て頂き、意見交換しながら協力関係を保っております。	市の担当職員が運営推進会議に参加をしている。また、毎月来訪する介護相談員とも定期的に意見交換を行うなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修にて、身体拘束をしないケアを目指し、取り組んでおります。	職員は身体拘束について理解をしており、拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず拘束を行う場合は職員間で話し合い、一時的であることを家族に説明し同意を得ている。日中玄関は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の中で再度何か虐待の項目に当たっているケアになっていないか、再確認しながら意識の再確認を行っております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が施設内でも該当者が出てきており、ご家族の関心が高くなっている現状を認識しております。再度い気づける研修を行って行きたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約時十分説明しております。その後の疑問や質問も随時受けるよう伝えております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	見学や定期的面会のご家族や受診同行されるご家族などおります。その際率直な意見を言って下さいますので、ケアの質向上の意見として受けて今後につなげております。	家族の訪問が多く、来訪時に意見を聴く他、電話で聞くこともある。利用者本人の要望や意見も聴き取っており、できる限り反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設の代表が朝の申し送りの際、出席することでその場での意見交換が出来る事と管理者を通して意見が斑されております。	毎週のカンファレンス時、施設長が参加する朝の申し送り時などで意見を聞いている。管理者は職員が自由に意見を言える環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設で働く職員が一体となって経営の健全化と満足感のある職場を目指すを基本方針としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修やカンファレンスの充実を図りながら共有したケアが出来る様に日々努力しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着の施設の認知症の勉強会があり、参加させて頂いたり、他の自業所との交流や勉強会をも再度行って行きたいと思っております。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の段階では納得してサービスを受けられる方とどうしても納得できないと、自宅に帰る等の行動を起こす方と居ります。その際はケースによりその方が安心して過ごされるようお話を聞きながら、納得されるまで対処していく方向で関係性を築いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族よりよりの不安な点や要望は、速やかに対応しております。ご家族自身からの要望を遠慮されている方には、成るべく面会をお願いしたり、認定調査時の場を借りてご家族と意見交換しながら関わりを行っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の段階では心身の状態を観察しながら、精神的支援や身体的支援がその他に何が必要なのか見極めながら対処しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心身の障害があってもここでの生活はお仲間の方が寄り添う関係も見られますので、お互いに影響し合う関係が出来る様にその方に合った生活が円滑に行われる支援をしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は入所されても関係性を持つと面会や受診又は定期的に利用者を自宅に帰って時間を過ごして頂く時間を取っている方が居ります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はどなたでも、宗教も問わずに制限しておりません。	家族や近所の友達が訪ねて来たり、買い物や公園の散歩、行きつけの美容院に行くなどで馴染みの場所を訪れる支援を行っている。また、家に帰りたい、兄弟姉妹に会いたいなどの要望は家族につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係性の把握に努めながら、良い状態が保てるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談に応じる体制でおります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの一日の過ごし方は無理のないペースで生活されるように、個々の姿勢を尊重しております。それぞれの思いでレクリエーション活動や外出、散歩、お友達同士の交わりなどを見守っております。	ホームでは「心を汲み取る」ことを大切に、今年の目標は「笑顔で感謝」とした。特に利用者の生活歴に重きを置き、それをふまえた支援を心がけており、かつての生活やこだわりを意識しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に情報収集すると共に入所されてからご本人やご家族との会話よりその人のありし姿の把握に努め日々のケアに反映されるようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンス会議、にて状態把握に努めながらケアしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態、ご家族の希望、チームケアでの意見を取り込みながらプランを作成し、実施内容を見直しのプラン作りに生かしている。	家族の来訪が多いので、家族の意向は確認しやすく、利用者は日頃から様々な希望を言葉や態度で伝えている。介護計画は医師・看護師など専門家の意見も取り入れて作成し、カンファレンスの際に利用者の状況を確認し、必要に応じて見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施した結果によってプランの計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の意向によって、支援の在り方を模索している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアセンターの活用は多きい資源となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理は隔週で主治医に往診して頂いていますので、身体変化が見られた時には受診して退所しております。入所前からの他の主治医の方に於いては継続して健康管理して頂けるように連携を図っております。	往診医が利用者全員の主治医になっている。専門医受診の際は家族や職員が付き添っている。ホームでは薬だけに頼らない生活を目指しており、医師と相談し、職員とも充分話し合った上で、睡眠薬を飲まないでも眠れるような支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤であり、状態の変化に対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院はご家族と連携しながら、退院の際には退院に向けて調整を図っております。早期退院に向けても調整しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた看取りの方針を入所時に提示しております。利用者やご家族が安心して終末期を迎えられるように、取り組んでいます。	入所時に看取りの方針を説明し、書面を交わしている。看護師が急変時の具体的な対応について、介護支援専門が連絡方法等について指導しており、いつでも対応できる準備が整っている。家族とは状況に応じて話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て年1回の普通救命講習の研修に参加しております。日中や夜間に於いても緊急の対応が出来る様に、全職員意識を高めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの防災自衛訓練を年1回と施設内防災訓練として1回の年2回行っております。防火管理者のもと防災計画書を作成して行い災害に対してヘルメットや伝統など備えた。部屋のもの高い所の置かない等をさらに徹底して行く方向性を検討しています。	消防署立会いの訓練は火災を想定して行った。訓練に先立ち、近隣住人にも協力を依頼し、当日の参加が得られた。利用者が素早く外へ出られるよう、日々の散歩はできるだけ全員を参加させるようにしており、抵抗なく避難することができた。	今後は、夜間や地震など様々な想定での訓練や、全職員が必ず訓練に参加できる体制作りが期待される。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	成るべくご本人を傷つけないように言葉の面や対応に気を付けながら、プライバシーに配慮したケアを心がけている。	トイレのドアは閉める、書類は出しっぱなしにしない、利用者のいるところで書類を書かないなど、全職員で常に意識している。また、介護相談員が訪れたときも、休憩室で利用者から話を聞くなど、利用者の気持ちを尊重した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何らかの訴えが見られた時には、ゆっくり聞いていくように、訴える事が出来ない時には行動や状態を見ながら、非言語的表現をくみと退所していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態に合わせて対応しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装の好みや、理美容面に於いても本人の好みを優先しております。又、ご家族の支援もありますので、良い状態を保っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆様の一番の楽しみですので、希望を取り入れていくようにしており、一緒に台所に立つなど有する能力に於いて、引きだしております。	利用者の好みを把握し、農薬を極力減らした米や野菜を使って職員が交代で調理している。利用者はその人のできる範囲で手伝いをしていた。庭でのバーベキューや飲み会など、職員も共に楽しみながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を記録し、そこから過不足のないように確認しながら行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩の支援が入りますが、個別の能力に合わせて行っており、日中は個人の自覚に任せております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状態を確認し、個別の援助形態を実施しております。認知症の面が強く抵抗や拒否が有る方がおり、中々ご本人の状態と気持ちに添うように計画し実施しておりますが、ご本人の思いの強さに、介護の難しさを感じております。	排泄チェック表も活用し「残存能力を活かす」ことを全職員で確認している。ポータブルトイレの位置や職員の声かけの仕方によって改善した経験から、職員も意欲的に排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善の為、食事や散歩・体操などの活動に取り組んでおりますが、どうしても便秘改善が出来ない時があります。便秘薬の服用で対処しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴介助を行っております。	脱衣室も浴室もゆったりしており、一人ひとりゆっくり入ることができる。時には仲が良い利用者が2人で入るなど、利用者の希望をかなえている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の時間を大切にしておりますが、1日の中で、皆さんと一緒に活動に参加して気分転換や会話などして頂けるように声掛けを行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	身体の既往や薬など表にしたものを常に置いております。薬の変更は日々の申し送りで徹底できるようにしております。身体状況の変化を個々の看護記録に記載し何時でも見られる様にしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレク活動に参加して頂いたり、外気に触れえたり、ご家族と外出したりのたのしや気分転換を計って頂くように、支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく季節ごとに外出するようにしております。	ホームでは外に出る機会を多く作っている。近隣住民とも触れ合える安全な散歩コースを始め、畑作業をしたり、庭で過ごしたり、ウッドデッキで花火を見たりお茶を楽しんだりしている。個別の外出にも力を注いでおり、家族とも協力して様々な希望を実現させている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は殆どの方は出来ませんので、行っておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかけられるように希望が見られた時には、その方の能力に応じて支援を行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、こまめな清掃と明るさを大切に環境設定をしております。季節ごとの空気の循環や湿度管理にも配慮しながら、健康を維持しながら良い空間で過ごすことを心がけております。	木をふんだんに使ったホームである。職員の目配りが全体に行き渡り、清潔で明るい空間である。既存棟と一緒に行事を行う食堂兼リビングはいつもにぎやかだが、各居室にはその音が届かず、居室でゆっくり過ごすことも可能である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんと集う空間でもあり、お一人でも過ごせる空間としてのリビングや廊下に出るとソファがあり、そこではゆったりとくつろぐ事が出来る居場所になっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の意向が反映された部屋作りとなっております。又今の使い慣れたものを用意し安心感のあるお部屋となっております。	各居室にはクロゼットや洗面台が備え付けられている。一人ひとりが家具や思い出につながる物を持ち込んでおり、配置も自由である。面会時間も制限が無く、居室内で家族と自由に過ごす利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関も外はスロープに、中は段差なくスムーズに足運びが出来る様に作られております。手すりを用いて成るべく、自立した生活が営めるように、各所に配置しております。		